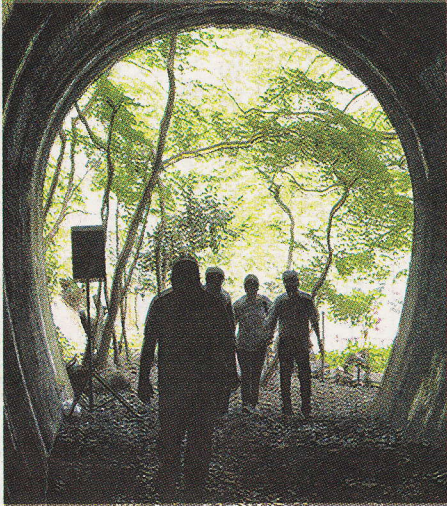


愛岐トンネル群が会場 現代アート展



D51が走り抜ける音の響くトンネルを抜ける来場者―春日井市の愛岐トンネル群で

春日井で「荒野ノヒカリ」始まる

春日井市―岐阜県多治見

市間の旧国鉄中央線廃線跡「愛岐トンネル群」を会場とした現代アート展「荒野ノヒカリ」が七日、始まった。廃線跡を整備しているNPO法人「愛岐トンネル群保存再生委員会」の主催。

開会式には、春日井商工会議所の松尾隆徳会頭やアート展を企画した名古屋芸術大の高橋綾子准教授らが出席。高橋准教授は「廃線

跡を歩き、気軽にアートを楽しんで」とあいさつし、松尾会頭らが汽笛を鳴らし、幕を開けた。

出展者は、名古屋市名東

区の美術作家占部史人さん（二〇）ら八人と一組。三号トンネルでは、占部さんが流木で作った約二十隻がつるされ、幻想的な雰囲気醸し出す。四号トンネルの入

り口には、廃線になった年の時刻表が立てられている。

また音響映像ユニット「softpad」(ソフト

パッド)が、トンネルを通った蒸気機関車D51の音を再現し、汽笛を響かせている。

会場内では屋台も設け、菓子や飲み物も提供。瀬戸市から訪れた高須満さん（五七）は「五感を使って、ゆっくりアートが味わえる」と満足そうだった。

展示は十月二十七日までの土日祝日。開場時間は午前十時―午後五時。入場料は大人五百円、中高生三百円、小学生以下無料。

(蓮野亜耶)